

研究課題名	肝細胞癌に対する薬物療法の予後予測：EOB-MRIによる不均一性評価の有用性
研究の意義・目的	<p>肝細胞癌に対する全身薬物療法の予後不良因子として、肝特異性 MRI 造影剤であるガドキセト酸ナトリウム(EOB)を用いた造影 MRI(EOB-MRI)の画像所見の有用性について検討します。さらに、EOB-MRI による予後予測を利用して、肝細胞癌の患者個々に応じた最適な全身薬物療法の選択に寄与することを目的としています。</p> <p>現在、進行肝細胞癌に対する全身薬物療法として 6 種類の薬剤が使用可能となっています。アテゾリズマブとベバシズマブの併用療法(2020年9月に保険承認)は薬物療法の first line として位置づけられていますが、カテニン変異肝細胞癌では治療効果が乏しいことが知られており、患者個々に応じた適切な薬剤選択が模索されています。</p> <p>肝特異性 MRI 造影剤であるガドキセト酸ナトリウム(Gd-EOB-DTPA,以下 EOB)を用いた造影 MRI(EOB-MRI)では、腫瘍血流のみならず、EOB を輸送するトランスポーターを視覚化することが可能です。トランスポーターの発現は腫瘍の悪性度や分子異常と関係しており、近年 EOB-MRI は予後予測に有用なイメージングバイオマーカーとして着目されています。</p> <p>今回我々は、肝細胞癌に対する全身薬物療法(アテゾリズマブ+ベバシズマブ、およびレンパチニブ)の予後不良因子として、EOB-MRI の肝細胞相の有用性について検討します。さらに EOB-MRI の肝細胞相による予後予測を利用して、肝細胞癌に対する薬物選択の新たな治療戦略を確立します。</p> <p>本研究は奈良県立医科大学が中心となるで行う研究です。</p>
研究を行う期間	機関の長の実施の許可日～2024年12月
研究協力をお願いしたい方(対象者)	2018年3月～2022年12月に下記の研究機関で、肝細胞癌のため入院された方が対象となります。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	<p>診療の過程で得られた下記項目を本研究に使用させてください。</p> <p>診療情報等：【病歴、診断名、年齢、性別、既往歴、検査データ、CT画像、MRI画像】</p>
試料・情報の他機関への提供	この研究は 奈良県立医科大学放射線科へ頂いた情報を提供します。その際は、特定の個人を識別できない形で提供します。
この研究を行っている共同研究機関	<p>研究代表者： 奈良県立医科大学 放射線診断・IVR学講座 南口 貴世介</p> <p>研究参加施設と研究責任者：</p> <p>大阪公立大学医学部附属病院 放射線診断学・IVR学 影山 健</p> <p>神戸大学 医学医学研究科放射線医学分野 祖父江 慶太郎</p> <p>大阪赤十字病院 消化器内科 喜多 竜一</p> <p>兵庫県立がんセンター 放射線診断・IVR科 前田 弘彰</p> <p>大阪府済生会吹田病院 放射線科 廣橋 里奈</p> <p>奈良県総合医療センター 放射線科 中川 裕之</p> <p>奈良県西和医療センター 放射線科 武輪 恵</p>

試料・情報を管理する責任者	研究代表者： 奈良県立医科大学 放射線診断・IVR学講座 南口 貴世介
本研究の利益相反	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
研究に協力をしたくない場合	下記に連絡することでいつでも本研究への協力を拒否することができます。また、研究への協力を断っても、診療に関する不利益等を受けることはありません。
連絡先	大阪公立大学大学院医学研究科 放射線診断学・IVR学 (担当者氏名) 影山 健 電話番号：(06) 66445-3831 メールアドレス：kageyama@omu.ac.jp